

◇◇◇ シリーズ／歯科差額徴収に関する質疑 第五回 ◇◇◇

昭和 51 年の国会質疑から抜粋

[005/006] 77 - 衆 - 本会議 - 15 号

昭和 51 年 05 月 06 日

○村山富市君

さらに、**歯科**における差額問題も、何ら解決に向かっていないではありませんか。昨年の第七十五通常国会においても、**歯科**における差額診療及び自由診療について、**歯科**医師会等から参考人の出席を求めて解明に当たってまいりましたが、今日に至るもなお、基本的には何ら解決されていないのであります。政府はこの問題をどう解決するお考えであるか、方針を承りたいと存じます。

○国務大臣（田中正巳君）

次に、**歯科**差額問題についての御質問がございました。これはかねがねの問題でございまして、先般、三月二十三日に中医協の答申をいただいております。しかし、私としては、**歯科**差額問題の解決を図るというのも私の仕事であります。国民の**歯科**医療の円滑な実施ということも私の重要な職責でございまして、こうした**歯科**医療の混乱を避けながら、この問題の適切、妥当なる解決を図るべく、今日、日本**歯科**医師会といろいろと協議をいたしております。できるだけ早い機会に、過去の経緯を踏まえ、実はいろいろ複雑な過去の経緯がございまして、問題は簡単ではございませんが、適切、妥当なる措置を講じたいというふうに思っております。

○寺前巖君

政府は、三月二十三日の中医協の答申を受け、**歯科**技術料の**差額徴収**公認の通達を廃止する態度を決めました。これは三十万円、五十万円という法外な差額負担に苦しめられている国民にとっては当然のことです。歯の痛みほど耐えがたいものではありません。ところが、いまだにこの問題の解決を見ないのは、一体どうしたことでしょうか。これは政府が、昭和三十年、四十二年と二度にわたる通達により、**歯科**治療に公然と**差額徴収**を導入し、**歯科**医の経営が国民の自己負担による差額収入に依存せざるを得ない状態に長年にわたって追い込んだ、その結果であります。それだけに政府の責任で措置をとることが必要であります。

歯科医が良心的な治療ができるよう、**歯科**医療技術の進歩にふさわしい診療報酬の適正な改善を図ることが緊急を要する課題だと思いますが、お尋ねいたします。

[004/006] 77 - 衆 - 社会労働委員会 - 9 号

昭和 51 年 05 月 14 日

○小宮委員 次は、**歯科**の**差額徴収**の問題ですけれども、厚生省はこの中医協の答申を受けて、差額の対象は原則として材料費に限ることとし、技術料は保険で賄うという方針を打ち出して通達がされているわけです。ところが、この新通達に対して日本**歯科**医師会は絶対反対だということで、これを認めてはいないわけです。最悪の場合には一部には保険医の返上という事態にも発展しかねないような情勢だと私は考えておりますが、そうでなければ幸いです。だから、この問題について、そういうような懸念はないかどうかということと、これに対して大臣は、この新通達の線に沿って日本**歯科**医師会を説得する努力をしておるのか、また自信があるのかどうかということです。

○田中国務大臣 歯科差額問題についていろいろと御批判が出、いろいろ社会問題になってきたことは、私どもも大変心を痛めておったわけであります。このことについて、私の就任以前に、私の前任者である厚生大臣が中医協に対して歯科差額のあり方いかんという諮問をいたしておったわけであります。ところが、この間、中医協が私の就任直後から御案内のとおり状況で実は空白になっております。この状態がやんで中医協の審議が再開をされるようになり、きわめて短時間に実はこの問題についていろいろ議論が出たわけであります。この議論の内容も途中で急にさま変わりをしたということについても、先生御存じだと思っております。そうして、いま言うとおりの昭和四十二年通達これを廃止しろ、そして歯科の差額は材料費に限るという答申をいただきました。私は、この前後からこの問題の沿革をずいぶんと調べてみました。その結果、問題はやはり四十二年通達にあったということもわかりました。したがって、これをめぐりまして歯科差額問題をどうするかということについて目下いろいろと考究中であります。

歯科差額の問題の解決を図るのも厚生大臣の私の責任であります。しかし先生おっしゃるように、国民の歯科医療が円滑に行われるということを確認するのも私の仕事でございます。この二つのテーゼの中であって、これをどう円滑にやるかということについていろいろと苦慮しているわけであります。

そういうわけで、何と言ってもやはり歯科の専門学術団体である日本歯科医師会の御理解を得なければならぬわけございまして、こうした問題を控えてずいぶん精力的に最近実は日本歯科医師会と話し合いをしております。絶対反対といったことを言っておったこともございますが、最近ではいささか建設的な御意見も出るようになってまいりました。私どもも、こうした話し合いの中から解決の方途というものを見出し得るものではなからうかと考えておりますが、率直に言って、ここのところ二週間ばかり毎日朝から晩まで国会におるものですから、この問題についての話し合いも、また考究もできないでいてやきもきしているという状況ございまして、多少の時間的余裕を得たならば、この中医協の答申を踏まえながら合理的な解決、歯科医師会がのめるような解決というもので、しかも相当的確にこの歯科差額問題が解決をしていく方向をいま考究中ございまして、私どもとしては、歯科差額問題もこれを好転させ、解決に向かい、そして歯科医療界が混乱をしないところをめぐるいろいろ苦勞しているわけございまして、いま少しくの間、時間をおかし願いたいと思っております。

昭和 51 年 05 月 20 日

○国務大臣（田中正巳君） 保険外負担、その典型的なものは差額ベッド、付添料、**歯科**の**差額徴収**制度、こうしたものが典型的なものとして取り上げられるわけですが、こうしたことは適切な医療を受けることの障害になってはいけないというのが私どものあるべき姿、政策を立案するものの基本の態度でなければならないと思います。したがっていま先生差額ベッドについてお話しがございましたが、およそ医療機関が差額ベッドを頼りにして収入を上げるというようなことであってはいけないものだというふうに思います。しかし、現実はなかなかさようにきれいに問題が整理されていないことは私は大変残念だと思えます。かねがね厚生省は通達を出し、その実行を実は督促をいたしております。しかし、いまだにそれが十分にいつているということではございませんので、今後さらにひとつこれについては督促をいたしまして、いやしくも病院が、医療機関が差額ベッドによる収入を当てにするということのないように指導をすると同時に、やはり入院料等につきましては中医協等をお願いをいたしまして、適切にこれを是正をしていくという二面的な対策を通じましてやっていかなければならないというふうに思っております、今後の私どもはやはり解決しなければならぬ重要な問題だと思っております

○小平芳平君 いま大臣お話し**歯科**の**差額徴収**についてはどのようになっておりますか。

○国務大臣（田中正巳君） **歯科差額徴収**問題につきましては、実はおとし以来あたりから大変社会的な批判がかまびすしくなりました。いろいろと御議論があったところでございます。事実社会問題としていろいろとマスコミ等において取り上げられました。そこで、昭和四十九年の暮れに私が大臣に就任直前に前任者の大臣が中医協に対し**歯科**の**差額徴収**のあり方いかんという諮問をいたしておったわけでありまして。ところが、その後中医協は先生御案内のとおり中断をいたしております。昨年の秋に——ことしの春かな、要するに実質的に動いたのはことしになってからでございますが、**歯科**部会を開いていろいろ検討をいたし、一応の御答申をいただきました。しかし、そのころから私はこの問題について歴史的経過等をもいろいろとフォローしてみたわけでありまして。その結果、問題は非常に根深いところにあるということであろうと思えます。したがって、今日これの解決の仕方について役所としては鋭意腐心をしているところであります。

問題は、**歯科差額徴収**制度というものを是正することも厚生省の任務の一つであることは間違いがございません。しかし、国民**歯科**医療というものが円滑に運営されるということも私どもの厚生省の仕事であります。したがって、この両者の二つのテーゼをどうやって円滑に、上手にかみ合わせて問題を解決するかというところに苦心が要るものというふうに思っているわけでありまして。したがって、**歯科**医師の団体である日本**歯科**医師会とも精力的に実は話をしておるところでございますが、だんだんと実は最初はずいぶんきつい話だけでございましたが、最近はいろいろと話がかみ合うようになってまいりました。もう少し私どもは話し合いをして**歯科**医療界が混乱しない姿において**歯科**差額問題が解決

する具体的な手法というものをいまいろいろ考究をしておるわけであります。折衝の途中でございますので、こうしたらいいとか、ああしたらいいということであれこれ申しますると、またそれをめぐってのリアクションが出てくるものでございますから、具体的なやり方については、いま少しくお待ちを願いたいと思いますが、問題としてはきわめて大事な問題でございますので、いまいろいろとせっかく取り組んでいるところですが、先生、率直に言って、毎日委員会なものですから、私この種の問題というのはどうしても大臣が出なけりや解決をしないという変な一面がございまして、私は手のすくのを待って、これが手がすいたら今度は私自身が陣頭に立って、この問題の積極的な解決に取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。

国会会議録検索システムから編集致しました。

みんなの歯科ネットワーク IV